

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No.150
2018/03/13

目 次

理事会報告	1
第 34 回年次大会参加申し込み方法および暫定プログラム	2
『日本中東学会設立の頃：30 周年記念座談会(2014)の記録』刊行の お知らせ	9
緊急シンポジウム「米大統領のエルサレム首都認定をめぐって」を 開催しました	10
『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告	12
韓国中東学会国際会議の案内と発表者の募集	13
寄贈図書	13
会員の異動	14
事務局より	15
編集後記	15
訂正	15

理事会報告

【2017 年度第 2 回理事会】

日時：2017 年 11 月 2 日（木） 19:00～21:00

会場：慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟第 1 会議室

出席：赤堀雅幸、大稔哲也、粕谷元、勝沼聡、栗田禎子、黒木英充、近藤信彰、
桜井啓子、東長靖、長沢栄治、保坂修司、森本一夫、山岸智子、山口昭彦、
横田貴之

欠席：末近浩太、森山央朗（委任状あり）

[審議事項]

1. 2018 年度公開講演会の開催方法について
2. 中東研究世界大会 (WOCMES 2018) への派遣について
3. 第 12 回アジア中東学会連合 (AFMA) 大会 (北京) 準備状況について
4. 奨励賞のあり方について (意見交換)
5. 学会ホームページの改修作業の業者委託について
6. 『日本中東学会年報』投稿規程の改定 (抜刷の電子ファイル化) について
7. AJAMES の J-STAGE 上での公開作業の業者委託について
8. ニュースレター149号編集案について
9. WOCMES 評議員の推薦について (意見交換)

[報告事項]

1. 韓国中東学会国際会議への参加について (2017 年 9 月 22~24 日、ソウル)
2. 第 23 回公開講演会について (2017 年 9 月 30 日、広島)
3. AJAMES 編集状況について (33 巻 2 号)
4. 第 34 回年次大会の準備状況について (2018 年 5 月 12~13 日)
5. 『日本中東学会設立の頃: 30 周年記念座談会 (2014) の記録』の刊行について (2017 年 12 月 25 日)
6. 東京都知事主催「在京イスラム諸国外交団との情報連絡会」について (2017 年 6 月 13 日)
7. 会員の異動について (11 月 2 日付け総会員数 711 名、うち学生会員 161 名)

第 34 回年次大会参加申し込み方法および暫定プログラム

前号、前々号でお知らせしましたとおり、日本中東学会第 34 回年次大会は、2018 年 5 月 12 日 (土)、13 日 (日) の両日、上智大学四谷キャンパスにおいて開催されます。

1. 参加および懇親会の申し込みについて

日本中東学会第 34 回年次大会への参加事前申込は、参加費の振り込みによって行っていただきます。2 月 28 日 (水) に大会への出欠通知、懇親会・弁当 (昼食) の申込用紙を兼ねた郵便振替用紙をお送りしましたので、大会に参加される方はこの振替用紙を利用して 2018 年 4 月 20 日 (金) までに参加費をお支払い下さい。ただし、個人研究発表および企画セッションに応募された方の参加費納入期限はこれより早く、3 月 16 日 (金) です。また、懇親会費、2 日目 (5 月 13 日) の弁当代などの納入も同じ振替用紙をご利用下さい。

事前申込の場合、大会参加費は1,000円、懇親会費は5,000円(学生会員は4,000円)、2日目弁当代は1,000円です。事前にお振り込みいただいた諸費用は返却に応じかねますこと、予めご承知おき下さい。

大会参加と懇親会への参加につきましては、当日の会場でも申込を受け付けておりますが、事前申込と諸費用の前納に何卒ご協力下さい。なお、当日受付の場合の大会参加費は2,000円、懇親会費は6,000円(学生会員は5,000円)とさせていただきます。

弁当の当日受付はお受けできませんのでご注意下さい。特に大会2日目(5月13日)は日曜日につき会場キャンパス内の食堂・購買はすべて休業しており、会場周辺にコンビニはありますが、当日営業している飲食店は多くありませんので、弁当の事前申込をおすすめします。

2. 託児所の設置について

託児所利用の希望を受け付けております。大会当日に託児所の利用を希望される方は、実行委員会事務局まで早めにご連絡下さい。その際は預けられるお子様の性別・年齢をお知らせ下さい。最終的な締め切りは4月20日(金)の予定です。託児所の費用につきましては託児所会計からの費用を充当する予定ですが、利用者の方に利用時間に応じて多少のご負担をお願いいたします。

3. 研究発表について

2日目(5月13日)の研究発表につきましては、個別発表53件、企画セッション4件の応募がありました。多数の応募をいただき、誠にありがとうございます。

暫定プログラムは後段の通りです。今後、発表予定者の都合などによる変更の可能性のありますこと、よろしくご了承下さい。最終的なプログラム、会場への交通案内、総会議決の委任状などは4月中旬にお手許までお届けする予定です。

4. 日本中東学会第34回年次大会暫定プログラム(2018年3月7日現在)

2月28日(水)に郵送した「暫定プログラム」から変更があります。以下が3月7日時点での最新暫定プログラムになりますのでご注意下さい。

第1日：2018年5月12日(土)

13:00～16:45 公開講演会「十字軍と現代：ヨーロッパ、中東、そして日本」

十字軍はヨーロッパ世界とイスラーム世界とが出会った歴史的出来事でした。しかし、この出会いは、両世界の経済的、文化的な交流を促進しただけでなく、互いに「他者」として認識し始める契機になったともいわれます。その後、「十字軍」という概念は、歴史的事実から離れて独り歩きし、政治や経済や文化の多様な文脈で使われるようになりました。本講演会では、十字軍にかかわる諸問題を、歴史的出来事であると同時に、現代的な概念の問題としても議論したいと思っております。

私市正年（上智大学） 趣旨説明／まとめ
櫻井康人（東北学院大学）「ヨーロッパ史からみた十字軍」
太田敬子（北海道大学）「イスラーム史からみた十字軍」
松本高明（東京都立富士高等学校）「歴史教育における十字軍」
坂坂修司（日本エネルギー経済研究所）「言説としての十字軍」

17:00～18:00 日本中東学会総会

18:30～20:30 懇親会

第2日：2018年5月13日（日）

*氏名の右側の（ ）内は所属。Jは大学院生を指す。

【企画セッション】

企画セッション1（12:40～14:10）

「日本人アラビア語学習者の現状と課題：アラビア語教育のニーズとメソッド（仮）」

司会（予定）：依田純和（大阪大学）

アブデルラフマーン・エルシャルカーウィー（大阪大学）“Learning Arabic in Japan: Reflections on Needs, Methods and Results”

鷺見朗子（京都ノートルダム女子大学）、鷺見克典（名古屋工業大学）「自己決定理論に基づくアラビア語学習動機づけ：日本の大学におけるアラビア語専攻、非アラビア語外国語専攻、非外国語専攻学生の比較（仮）」

富永正人（東京外国語大学）「Proficiency からのアラビア語教育文法再考」

コメンテーター（予定）：福田義昭（大阪大学）

企画セッション2（14:20～15:50）

「日本国外でのアラビア語学習」

岡崎英樹（四天王寺大学）「アラビア語教育における4技能とは何か：『ACTFL 熟達度評価指針』の検証から考える（仮）」

竹田敏之（京都大学）「現代アラブ世界におけるアラビア語教育の伝統：モータニアの文法学習を事例として（仮）」

アブデルラフマーン・エルシャルカーウィー（大阪大学）“Arabic Learners and Difficulties in Achieving Continuity in Learning”

近藤久美子（大阪大学）「語学留学の功罪：多重言語世界において何をどう学ぶのか（仮）」

榮谷温子（慶應義塾大学）「外国語習得における学習者の『自律性』（仮）」

企画セッション3（12:40～14:10）

「紛争地における地域研究の方法およびその成果」

ファシリテーター・コメンテーター：青山弘之（東京外国語大学）

浜中新吾（龍谷大学）「世論調査による中東地域研究の回顧と展望」

高岡豊（中東調査会）「紛争下のシリアについての調査と課題」

山尾大（九州大学）「地域研究と政治学を架橋する：イラクを事例に」

企画セッション4 (12:40~14:10)

「現代イスラームにおける『伝統』の継承とジェンダー」

小野仁美 (神奈川大学) 「イスラーム改革思想家イブン・アーシュールの『シャリーアの目的』論：思想とその拡がり」

高橋圭 (日本学術振興会) 「現代アメリカにおける『伝統イスラーム』への回帰とジェンダー言説」

澤井真 (京都大学) 「男／女の解消：スーフィーの人間観」

後藤絵美 (東京大学) 「無意識の伝統主義：邦訳クルアーンとジェンダー」

【個人研究発表】

第1部会

9:00~9:40 林政緯 (Lin Cheng-Wei) (Michigan State University) “Frequency Effect of Arabic Root Morpheme on Word Recognition”

9:40~10:20 アルモーメン・アブドーラ (東海大学) 「アラビア語放送通訳の翻訳手法に関する考察：アルジャジーラニュースを例に (仮)」

10:20~11:00 モハンマド・ファトヒー (外務省研修所、東京都市大学) 「アラビア語の『外の関係』の名詞修飾：『ふつうの内容補充』を中心に」

11:00~11:40 竹田敏之 (京都大学) 「現代アラビア語の休止形に関する伝統的規範と応用実例：半島方言とクルアーン読誦流派を中心に (仮)」

第2部会

9:00~9:40 Murayama Konomi (東京外国語大学 J) “Works of Ali Shariati and Their Intended Readers”

9:40~10:20 Koo Gi Yeon (Seoul National University) “The Cries of the Lioness: Iranian Women's Political Participation during the Green Movement 2009”

10:20~11:00 Kim Kangsuk (Hankuk University of Foreign Studies) “South Korea-PLO Relations in the Wake of the Camp David Accords”

11:00~11:40 Alena Kulinich (Seoul National University) “Justifying Wealth and Poverty by the Qurʾān: A View from the Thirteenth Century Anatolia”

14:20~15:00 沈雨香 (Sim Woohyang) (早稲田大学 J) “Higher Education beyond Occupational Attainment: A Case of Gulf Countries (仮)”

15:00~15:40 Yamashita Yoko (早稲田大学 J) “The Reconfiguration of the Public and Private Spheres in Europe: Cases of Headscarf and Face-veil Bans (仮)”

15:40~16:20 Sean Foley (Middle Tennessee State University) “To Go with the Grain: The Rise of Saudi Arabia's Modern Artistic Movement”

第3部会

9:00~9:40 岩坂将充 (同志社大学) 「トルコにおける『強い政治指導者』の出現とその構造的要因 (仮)」

9:40~10:20 渡邊駿 (京都大学 J) 「21世紀におけるヨルダン君主制の変容：ヨルダン体制中枢エリートの通時的分析から」

- 10:20～11:00 佐野東生 (龍谷大学)「イラン政治におけるシーア派思想の影響:ハッサン・ロウハーニー大統領の例から」
- 11:00～11:40 金信遇 (上智大学 J)「現代チュニジアの地域構造変動に関する基礎研究:フランス保護領期の人口と産業 (仮)」
- 14:20～15:00 小林周 (日本エネルギー経済研究所)「なぜ内戦後のリビアは安定しないのか:移行政府の『正統性』への着目」
- 15:00～15:40 岡部友樹 (京都大学 J)「第二共和制レバノンにおける選挙と仮想的人口動態」
- 15:40～16:20 白谷望 (上智大学)「モロッコにおける分断的政治領域の再生産:世帯調査から見る地域別投票行動 (仮)」

第4部会

- 9:00～9:40 赤川尚平 (慶應義塾大学 J)「イギリスのイスラーム認識とオスマン帝国 (仮)」
- 9:40～10:20 池端路 (京都大学 J)「イスラーム国際世論形成とテロ問題:OICの役割を中心に (仮)」
- 10:20～11:00 役重善洋 (大阪経済法科大学)「エルサレム世界宣教会議 (1928年)とパレスチナにおける汎イスラーム主義の勃興 (仮)」
- 11:00～11:40 篠本創 (京都大学 J)「ニクソン政権期における米国の湾岸政策分析:オフショア・バランスング政策の系譜と変化」
- 14:20～15:00 向井智哉 (早稲田大学 J)、金信遇 (上智大学 J)、近藤文哉 (上智大学 J)、松木祐馬 (早稲田大学 J)「ムスリムに対する受容的態度と類似度・脅威度認知の関連」
- 15:00～15:40 小島宏 (早稲田大学)「2000年代後半フランスにおけるムスリム移民1世・2世若者の宗教的飲食制限の関連要因」
- 15:40～16:20 前田君江 (東京大学)「ムスリム・マイノリティの児童書ネットワーク (仮)」

第5部会

- 9:00～9:40 平寛多朗 (東京外国語大学)「チュニジアにおけるアラビア語文学史とワタニーヤ」
- 9:40～10:20 佐藤愛 (京都大学 J)「在米詩人スヘイル・ハンマードにおける『パレスチナ』:記憶の継承とディアスポラ (仮)」
- 10:20～11:00 岡真理 (京都大学)「エフラト・ゴシェンはなぜ、エフラト・ゴシェンなのか、そして『人間=問題』とは?:ガッサーン・カナファーニー『ハイファに戻って』の謎」
- 11:00～11:40 飯野りさ (日本学術振興会)「シリア正教徒共同体における世俗歌謡と民族・宗教感情:音楽表現にみる故郷のイメージに着目して」
- 14:20～15:00 縄田浩志 (秋田大学)「サウディ・アラビア紅海沿岸ジッダで販売される黒サンゴ製の数珠について」
- 15:00～15:40 西舘康平 (東京外国語大学 J)「ナイル川の水の安全保障から遡るエ

ジブトの安全保障研究の系譜 (仮)

15:40～16:20 鈴木隆洋 (同志社大学 J) 「南アフリカとイスラエルにおける和平プロセスに対する先住民労働者による経済闘争の影響について：資本の要請と先住民統合の関係から」

第6部会

9:00～9:40 竹村和朗 (日本学術振興会) 「ワクフの規定に関する 1946 年法律第 48 号の法案審議の再検討 (仮)」

9:40～10:20 佐藤友紀 (東京大学 J) 「立憲王政期のエジプト国家とイスラーム」

10:20～11:00 沖祐太郎 (九州大学) 『戦争法』アラビア語版 (カイロ、1872 年) のテキスト分析：捕虜の取扱いに注目して」

11:00～11:40 勝畑冬実 (東京外国語大学) 「エジプト映画における『イスラーム主義』の表象：1990 年代後半・2000 年代の作品分析から (仮)」

14:20～15:00 岡崎弘樹 (中部大学) 「カーシム・アミーン『女性の解放』の再検討」

15:00～15:40 登利谷正人 (上智大学) 「ムスリム知識人の関与と相互関係：1929 年アフガニスタン内乱をめぐる対応を中心に」

15:40～16:20 松田和憲 (京都大学 J) 「19 世紀南アジアにおけるアフレ・ハディース派の形成：シャー・ワリーウッラー一族とのつながりに着目して (仮)」

第7部会

9:00～9:40 篠田知暁 (日本学術振興会) 「マーリク派法学における不正蓄財者の財産権制約に関する学説の発達とその適用」

9:40～10:20 野口舞子 (お茶の水女子大学 J) 「12 世紀前半マグリブ・アンダルスにおけるジハードのフトバの分析 (仮)」

10:20～11:00 ハシヤン・アンマール (京都大学) 「啓典解釈学とハディース学から見たイスラーム経済の法学的論点：リバー (利子) とハムル (醜陋物) を中心に」

11:00～11:40 亀谷学 (弘前大学) 「江戸後期貨幣図録の中のイスラーム貨幣 (仮)」

14:20～15:00 相樂悠太 (東京大学 J) 「イブン・アラビー思想における『霊』(rūh) の概念」

15:00～15:40 山口匠 (東京大学 J) 「ムーセムとミハラジャーン：スイディ・アリ、ハマドゥシャ教団における介入の試み」

15:40～16:20 近藤文哉 (上智大学 J) 「現代エジプトにおけるマウリドの表象：新聞を分析の中心として (仮)」

第8部会

9:00～9:40 岡室美恵子 (NPO 研修情報センター) ・染矢将和 (千葉経済大学) 「変動為替相場移行後のエジプトのマクロ経済分析」

9:40～10:20 足立真理 (京都大学 J) 「現代インドネシアにおけるザカート (喜捨) の制度化とイスラーム型小規模融資を用いた再分配機能 (仮)」

10:20～11:00 清水学 (アジア経済研究所名誉所員) 「経済制裁の政治経済学」

11:00～11:40 武石礼司 (東京国際大学) 「低炭素社会と中東産油国経済の将来」

14:20～15:00 ケイワン・アブドリ (神奈川大学) 「イランにおける企業発展の歴史」

と現状」

15:00～15:40 井堂有子 (国際基督教大学) 『『エイシュ・バラディ』: エジプトのパン配給制度と改革、階層化について (仮)』

15:40～16:20 田中雅人 (東京大学 J) 「シリア・パレスチナの私家文書にみる在地地主の農業経営」

5. 発表予定者の皆様へ

発表予定者の発表要旨原稿の提出は3月5日(月)に締め切りました。大会参加費の振り込みを3月16日(金)までにお願いたします。期日までにこの2つの条件が満たされない場合は、発表をお断りすることもありますのでご注意ください。

3月16日(金)までに学会への入会手を完了し、2018年度までの会費を納入していることも、発表資格条件の一部として定められています。期日までにこの条件が満たされない場合には発表をお断りすることもありますのでご注意ください。海外在住などの理由から参加費の振込が難しい場合には別途ご相談下さい。

なお、年次大会実行委員会事務局は、学会への入会手続き・会費の納入の代行はいたしません。下記 URL をご参照の上、発表者ご自身で手続き等を行って下さるようお願い申し上げます。

日本中東学会公式サイト内「入会案内」:

<http://www.james1985.org/about/admission.html>

同「入会ホーム」: http://www.james1985.org/about/admission_form.html

【大会参加費等の振込方法】

2月28日(水)に、暫定プログラムとともに大会への出欠通知、懇親会、2日目の弁当(昼食)の申込用紙を兼ねた郵便振替用紙を送付いたしました。発表予定者の皆様は、この振替用紙で下記の口座に3月16日(金)までに参加費をお支払い下さい。

懇親会および弁当の申込は任意ですので、発表を行うための要件ではありません。なお、弁当につきましては当日の申込はお受けできません。

大会参加費は1,000円、懇親会費は5,000円(学生会員は4,000円)、2日目弁当代は1,000円です。なお、事前にお振り込みいただいた諸費用は返却に応じかねますのでご注意ください。

振込先(郵便振替口座)

口座番号 00180-3-324627

口座名称(漢字) 日本中東学会第34回年次大会実行委員会

口座名称(カナ) ニホンチュウトウガッカイダイサンジュウヨンカイネンジ

【研究発表要旨の執筆要項】(提出を締め切りましたので、以下は参考情報です)

以下の執筆要項(1)～(7)を御熟読の上、要旨の執筆をお願いいたします。なお、

企画セッションにてご発表の方については、代表者が全員の分をとりまとめたかたちでご送付下さい。

- (1) 要旨は大会当日配布される要旨集に掲載します。
- (2) 分量は、日本語による発表の場合、和文 1,000 字以内、英語による発表の場合、英文 350words 以内とします。
- (3) 日本語による発表の場合には英文タイトル・英文要旨 (350words 以内) を、英語による発表の場合には和文タイトル・和文要旨 (1,000 字以内) もつけて下さい。
- (4) 和文、英文ともに発表タイトル、氏名、所属 (大学院生の場合はその旨を必ず明記のこと)、要旨本文の順序で書いて下さい。ただし、書式の統一を図るため、年次大会実行委員会が若干の修正を施す場合がありますのでご了承下さい。フォント、行数等についてもこちらで決定します。
- (5) 英文のブラッシュアップやネイティブ・チェックを年次大会実行委員会が行うことはありません。各自の責任で行って下さい。
- (6) アラビア語転写などの特殊文字は使用しないで下さい。
- (7) 書式なし (シンプル・テキスト) のファイルで、E-mail に添付して、3 月 5 日 (月) までに年次大会実行委員会事務局のアドレス (jamesophia2018@gmail.com) にご送付下さい。

6. 大会についての連絡先

日本中東学会第 34 回年次大会実行委員会事務局

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1 上智大学外国語学部 岩崎えり奈研究室

Tel: 03-3238-3953 (直通)

E-mail: jamesophia2018@gmail.com

* 可能な限りメールでご連絡お問い合わせをいただければ幸いです。

(小牧昌平 第34回年次大会実行委員長)

『日本中東学会設立の頃：30周年記念座談会(2014)の記録』刊行のお知らせ

冊子『日本中東学会設立の頃』が完成し、1 月下旬に会員の皆様のお手元に発送されました。中東学会設立 (1984 年 12 月「設立発起人会」、1985 年 4 月「第一回年次大会」) 30 年を記念して 2014 年夏に開催された座談会の記録を活字化したものです。設立に参加し、中東学会の活動を軌道に乗せるために尽力した会員諸氏による貴重な証言・対話に加え、「附録」には座談会当日の配布資料や、設立前後の様子を伝える写真等も収録されています。(総頁数 74 頁)

日本中東学会の沿革、歴史を振り返ると共に、さらなる課題や今後の活動を考えるための手がかりとしてご活用ください。

なおこの場を借りて、座談会参加者各位、原稿チェックや関連資料の探索、印刷所との連絡等に尽力頂いた会員・理事、また資料提供でお世話になった国立民族学博物館「梅棹忠夫資料室」はじめ、ご協力頂いた皆様すべてに御礼申し上げます。

(飯塚正人、栗田禎子 記念冊子編集担当)

緊急シンポジウム「米大統領のエルサレム首都認定をめぐって」を開催しました

中東学会会員の皆さまには改めて申し上げるまでもありませんが、昨年（2017年）12月6日、トランプ米国大統領が、エルサレムをイスラエルの首都と認定し、将来的には米国大使館をエルサレムに移転させるという宣言を行いました。これが、中東に対し、また中東をこえて世界全体に対し、大きな影響を与える重大な出来事であることは言うまでもありません。

このような事態に臨み、学会理事会は、中東地域を対象とする地域研究学会としての日本中東学会には、今こそまさに相応の社会貢献を行う責務があると考えました。そして、学会に集う関連分野の専門家にそれぞれの視点からの情報や見解を提供していただき、続けてフロア含めた意見交換を行うという形式で、緊急シンポジウムを開催することにしました。シンポジウムの企画は、黒木会長と森本（企画担当理事）が主として担当することとなりました。理事会のメール審議開始が12月14日のことでしたので、まさに「緊急」シンポジウムとなった次第です。シンポジウムの開催に当たっては、長沢栄治理事が主任を務める東京大学東洋文化研究所班研究「中東の社会変容と思想運動」が共催を買って出て下さり、この班研究と関係の深い、鈴木啓之会員をはじめとする大変有能な「軍団」が当日の裏方仕事を全面的に引き受けてくれました。

以下、シンポジウムの告知文を転載します。



パネラーの会員諸氏（左から臼杵、田中、今井、近藤、桜井、鈴木、鶴見の各氏）

(引用開始)

トランプ大統領が 12 月 6 日に行った、エルサレムをイスラエルの首都と認める宣言が各地で大きな波紋を広げています。

この問題が単にパレスチナ・イスラエル両者間の問題にとどまらない、中東全域の、さらにはグローバルな規模での深刻な問題であることから、日本中東学会は下記の要領で緊急シンポジウムを開催いたします。

シンポジウムでは、この問題に深く関係するさまざまな地域や国を専門とする専門家がそれぞれの視角からの情報提供・分析を行います。また、フロアとの質疑や議論の時間もできるだけ確保したいと考えています。

状況の複雑性を正面から見据えた、しかし複雑性に絡みとられることのない、日本中東学会だからこそ提供できる内容のシンポジウムにしたいと考えています。幅広い皆様のご参加を心からお待ちしています。

(文責：日本中東学会企画担当理事 森本一夫)

日時：2017 年 12 月 22 日（金）18:00-20:30（終了時間は予定）

会場：東京大学東洋文化研究所 3F 大会議室（東京都文京区本郷）

パネラー：

臼杵陽（日本女子大学、パレスチナ・イスラエル）、田中好子（パレスチナ子どものキャンペーン）、近藤重人（日本エネルギー経済研究所、湾岸産油国）、鈴木恵美（早稲田大学、エジプト）、今井宏平（ジェトロ・アジア経済研究所、トルコ）、桜井啓子（早稲田大学、イラン）、鶴見太郎（東京大学、イスラエルとロシア）

※まず臼杵氏に 20 分お話しいただき、その後、田中氏以下の方々には括弧内に示した地域・国を専門とする立場から各 10 分お話しいただく予定です。所属は略称です。

司会：森本一夫（東京大学；日本中東学会企画担当理事）

対象：市民、メディア関係者、学生、研究者（参加無料、事前登録不要）

主催：日本中東学会

共催：東京大学東洋文化研究所 中東研究「中東の社会変容と思想運動」

問い合わせは森本一夫 ([morikazu\[at\]joc.u-tokyo.ac.jp](mailto:morikazu[at]joc.u-tokyo.ac.jp)) までお願いいたします。

(引用終わり)

当日はショートノティスでの開催にもかかわらず三桁に達する参加者を得て、盛会でした。パネラーの皆さまが簡にして要を得た話をして下さり時間を守って下さったおかげで、質疑の時間も多めにとることができ、フロアとのやりとりもしっかりと成立したと思います。もう少し「仕込み」の時間があればアメリカ政治の専門家にもパネラーをお願いできたのになどと、後から考えれば色々穴があったのは確かですが、個人的には、日本中東学会としてやれることはやったのではないかと考えています。



会場の様子（別室で中継も行いました）

ご多忙の中、パネラーを引き受けてくださった会員の皆さま、企画・運営にご協力下さった皆さま、まことにありがとうございました。

通例のように参加者の皆さまにアンケートをお願いしたのですが、回答の中で、会員の無名氏から、「このような時事ネタの企画をもっとやりましょう」という意見をいただきました。充分に考慮したいご意見だと味読した次第です

が、同時に、次に時事ネタで企画を立てる際にはぜひとも喜ばしいテーマでやりたいものだと心から思った次第です。

（森本一夫 企画担当理事）

『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会報告

1. 34-1号 現在編集中

34-1号は、7月の刊行を目指して編集作業を鋭意進めております。論文2本、研究ノート2本、書評2本を掲載できる見込みです。

2. 34-2号 投稿締切

34-2号の締切は6月1日です。論文、研究ノート、書評等さまざまなジャンルでの投稿をお待ちしております。とくに欧文での投稿を推奨、歓迎しております。また、英文による特集の企画がありましたら、ぜひご投稿ください。

3. 博士論文要旨

AJAMESでは、会員による中東関連の博士論文要旨（英文）を掲載しています。とくに締切を設けておりませんので、最近博士論文を提出された会員の方は、随時ご投稿ください。また、お近くに中東関連で博士論文を提出された方がいらっしゃれば、ぜひ投稿を呼びかけてください。

4. 投稿規程改定

新しい投稿規程は、学会ホームページに掲載されています。著者には、今後、紙媒体の抜刷の代わりにPDF形式の抜刷を提供いたします。希望者は紙の抜刷を有償で注文することができます。

5. J-Stage 上でのバックナンバー公開

国立情報学研究所による学協会向け論文電子化・公開サービス (NII-ELS) の終了にともない、インターネット上で『年報』バックナンバーにアクセスできない状態が続いておりました。3 月中に科学技術振興機構の電子ジャーナルの無料公開システム J-Stage 上で公開できる見込みです (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>)。詳細については、公開時にメーリングリストでお知らせいたします。

本誌に関するお問い合わせ先、原稿投稿先は以下のとおりです。

〒183-8534

東京都府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 近藤信彰気付

『日本中東学会年報』編集委員会

ajames-editor@james1985.org

(近藤信彰 AJAMES 編集委員長)

韓国中東学会国際会議の案内と発表者の募集

韓国中東学会より年次国際大会 (2018 年 10 月 12~14 日開催予定) の案内が届きました。参加に際しては 2 泊分のアコモデーション (ソウル) が提供されるとのことです。

詳細につきましては下記 URL にある案内文をご覧ください。

http://james1985.org/data/doc/2018KAMES_International_Conference_Call_for_Papers.docx

参加をご希望の方は、(案内文にある実行委員会宛ではなく) 以下の日本中東学会事務局のメールアドレス (james@james1985.org) 宛に発表題目と CV を 3 月 22 日 (木) までにお送りください。
(勝沼聡 事務局長)

寄贈図書

【単行本】

末近浩太『イスラーム主義：もう一つの近代を構想する』岩波書店、2018 年
桃木至朗監修、藤村泰夫・岩下哲典編『地域から考える世界史：日本と世界を結ぶ』
勉誠出版、2017 年

会員の異動

【新入会員】

赤川 尚平

木村 有里

澤井 真

篠本 創

染矢 将和

高橋 舞子

田中 雅人

山口 匠

Elham Hosnieh

Mostafa Khalili

【所属先・連絡先の訂正・変更】

大淵 久志

北川 明

柴田 英知

登利谷 正人

ハガグ ラナ

二ツ山 達朗

事務局より

昨年末、会員の皆様に年会費納入のお願いをいたしましたところ、おかげさまで多くの方が年会費を納めてくださいました。ご協力に厚く御礼申し上げます。なお、振込用紙と共にお送りした名簿に関しては、「明らかに古い情報が含まれている」とのご指摘をいただきました。これまでも名簿作成のさいには、学会メーリングリストを通じて会員の皆様方に情報の更新をお願いしてきましたが、なかなかご対応いただけないのが現状です。会員の皆様におかれましては、お手元の名簿を今一度ご確認いただき、ご自身の情報に更新すべき点がございましたら、事務局までお知らせください。どうぞ宜しくお願い申し上げます。
(勝沼聡 事務局長)

編集後記

早くも 2017 年度が終わろうとしています。学部の学生などからは、イスラーム国の衰勢が明らかになったというので、中東情勢の好転を期待する声が聞こえます。しかし、シリア情勢の混迷は相も変わらず、サウディアラビアと周辺国の関係がさらに不安定化するなど、「好転」と称するのはためらわれる状況が続いています。中東の政治情勢に限らず、5月の総会席上、黒木会長が指摘した3つの危惧すべき状況（知的活動の自由への締め付け、中東の政治情勢の不安定化、排外主義の拡大）はいずれも改善することなく、その中で学会も会員個々もその姿勢を問われてきたように思われます。

だからといって暗い顔をしていても始まりません。2018年度には私の本務校でもある上智大学での第34回年次大会が5月に控えており、皆様にお目にかかれるのを楽しみにしています。また、7月にはセヴィーリヤでのWOCMES 2018に参加する会員も多数おられるでしょう。時期が未定ですがAFMAの第12回大会も年度中に開催の予定で、学会にとって国際交流の機会が多い一年となることでしょう。会員個々の皆様にとって新しい年度が飛躍の年であることを祈りつつ、学会が皆様の活動にとってわずかにでも支えになるよう、第17期理事会の任期の後半に向けて気持ちも新たに歩み出したいと思います。
(赤堀雅幸 ニューズレター担当理事)

訂正

ニューズレター148号（2017年9月30日発行）31頁に掲載の「日本中東学会第33回年次大会決算」において、収入合計および支出合計の金額が誤っておりました。謹んでお詫び申し上げますとともに、下記の通りに訂正いたします。

誤) 133,700 → 正) 1,337,000

学会ウェブサイト上に掲載のPDF版のニューズレターでは、訂正済みのファイルに差し替えを行ってありますので、そちらをご参照いただければ幸いです。

日本中東学会ニューズレター 第150号
発行日 2018年3月13日
発行所 日本中東学会事務局

日本中東学会事務局
〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
慶応義塾大学文学部 勝沼聡研究室内
Eメール: james@james1985.org
<http://www.james1985.org/>
郵便振替口座：00140-0-161096(日本中東学会)
銀行口座：三井住友銀行渋谷支店(普)5346808
(日本中東学会)
ゆうちょ銀行口座：〇一九店(当)0161096
(ニホンチュウトウガクカイ)